

「向学の熱」

令和5年度 竜北中学校 学校便り 第4号

文責 校長 高橋 博之

学校ホームページ <https://jh.higo.ed.jp/ryuhoku/>

「向学の熱」 ～全国学力・学習状況調査結果より～

4月に行われた「令和5年度全国学力・学習状況調査」（第3学年対象）の結果概要と各教科の今後の対策についてお知らせします。今年度は、国語・数学に加え英語が行われました。なお、この調査は、学力のうち特定の一部分を測定するものであり、生徒の学力全体を評価するものではありません。

【国語】全国平均を下回りました。

「言語文化に関する事項」については、全国平均と同程度でしたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」、において全国平均を下回りました。⇒対策：文章を読み通す機会を多く設ける。特に、発表や文章を書く際は、根拠を明確にしておくことを意識させる。

【数学】全国平均を下回りました。

「関数」の領域は、全国平均を上回りました。「データの活用」は全国平均と同程度、「数と式・図形」の領域は、全国平均を下回りました。⇒対策：授業終末に適用問題に取り組み、その時間の理解度を確認する。少人数指導とICT活用等による個に応じた指導を充実させる。

【英語】全国平均を下回りました。

「読むこと」の領域では、全国平均をやや下回りました。「聞くこと・書くこと」の領域において、全国平均を下回りました。

⇒対策：基礎的・基本的事項は繰り返し指導することで定着の徹底を図る。少人数指導等により個に応じた指導を充実させる。

【生徒質問紙より】

肯定的な評価が、全国平均に比べ大きく上回ったものは、「学校へ行くのが楽しい」「今住んでいる地域の行事に参加している」「ICT機器を授業で使用している」がありました。逆に、大きく下回った（課題がある）ものは、「1日あたりの学習時間」「家庭にどれくらいの本があるか」「授業中は課題の解決に向け、自分で考え取り組んでいるか」などでした。家庭学習の時間確保については例年課題となっているものです。学校では、「竜中ノート」を使って学級担任等が学習時間の確認を行い、学校全体で声かけ等を行っています。学習は、毎日の積み上げが大事であることはいうまでもありません。家庭においても、お子さんへの声かけを是非お願いいたします！

『その言葉、大丈夫？』

9月2日に人吉市で、中学生が日常生活の中で感じたことや考えたことを発表する「第45回少年の主張熊本県大会」が行われました。この大会に、八代地区の中学校代表と



して2年生の赤星李音さんが『その言葉、大丈夫？』のタイトルで主張を行いました。李音さんは、自分自身の経験をふまえて「言葉はその使い方、勇気をもらったり幸せな気持ちになったりする。しかし、その逆に相手を傷つけたり悲しませたりもする。だから、私は相手のことを考え、友人が笑顔になって元気になるような言葉をかけるよう心がけていきたい。」と、堂々と発表しました。日頃何気なく使っている言葉について、使う前に今一度“大丈夫”か考えてみましょう！

「叱る時の三つのコツ」

井村雅代さん（シンクロナイズドスイミングの元日本代表ヘッドコーチ）が講演の中で、選手を叱るときに三つのコツについて次のような話をされましたので紹介します。①「**現行犯で叱る**」いまのそれがダメとその場で言う。②「**古いことを持ち出さない**」前にやったことを持ち出されると、今やったことへの反省が薄れてしまう。③「**しつこく叱らない**」しつこく叱ることは、指導者の自己満足に他ならず、聞かされる方は嫌気がさす。更にプラスワンとして、叱ったときには、**必ず直す方法をアドバイス**する。



多くのメダリストを育てた指導者の言葉ですが、子ども達と関わる我々大人も、是非心に留めておきたいものです。